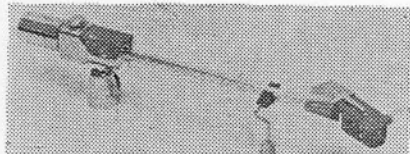


# 国内新製品紹介

## グレースの新製品 2 種

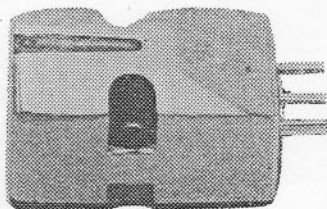
### ● トーン・アーム “G-340”

同社のプロフェッショナル・サイズの G-380 の特長をそのまま生かして、一般市販のプレーヤー・ケースに収まるような 14 インチ (35 cm) 型としたステレオ用 トーン・アームである。ステレオ再生にもっとも有効とされているダイナミック・バランス・タイプを採用しているため、完全なバランスとともにトラッキング・アビリティもきわめてよい。カートリッジを簡単に取換えられるようプラグイン・ヘッド・システムとなっている。軽合金のパイプを主部とし、ダイキャスト、プラスチックを組合わせて、共振の問題は完全追放されている。垂直・水平方向とともに高い感度を持つアームなので、針圧 1 gr 以下でも安定な動作をするが、針圧調整ネジによって最大約 12 gr までの間を精密に調整することができる。また、レコード面と同じ高さで実際の針圧を測定できるバランス型プレッシャー・ゲージも附属している。定価は ¥8,600。



### ● ステレオ・カートリッジ “F45-H”

わが国で最初の 0.5 ミルのダイヤモンド針を使ったムービング・コイル型のカートリッジである。周波数範囲は 20~20,000 c/s ( $\pm 2.5$  dB)。出力電圧は約 0.3 mV (50mm/sec, 1000 c/s)。インピーダンスは約 30 $\Omega$  (ほとんど直流抵抗で、20,000 c/s までほぼ一定)、負荷インピーダンス 30 $\Omega$  以上、チャンネル・バランスは感度  $\pm 0.5$  dB (10,000 cs)、周波数特性  $\pm 1$  dB となっている。クロストークは 1000 c/s にて -22 dB 以下、10000 c/s にて -18 dB 以下である。針圧は 2~5 gr が適当で、針先の機械的インピーダンスは  $4.5 \times 10^{-6}$  cm/dyne。自重は 15 gr。サイズは幅 17×長さ 35×高さ 17 (mm) である。定価は ¥9,500。

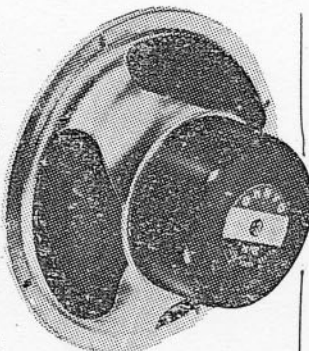


(東京都品川区大井元芝町 870  
Tel: 761-7744)  
品川無線 K. K.

### オンキョーのスピーカー “PD-8C”

8 インチ (20 cm) のパーマネント・ダイナ

ミック型スピーカーである。周波数範囲および偏差は 50~12,000 c/s  $\pm 7$  dB。最低共振周波数は 80 c/s、出力音圧レベルは 96 dB/W 以上、許容入力力は 4 W、VC インピーダンスは 8 $\Omega$  である。附属の出力トランスの一次インピーダンスは 2.5.5 k $\Omega$  または 5.8k $\Omega$



空磁束密度は 9,000 ガウス、バツフル開口直径は 182 mm、振動系実効質量は 8.6 gr。外径寸法は 206 mm、奥行 84 mm、重量は 830 gr である。現金正価は ¥1,250。

(大阪市旭区大宮西之町 5-32)

大阪音響 K. K.

### 三和の CR 発振器 “AG-202CR”

本機はもっとも信頼のおけるウイーン・ブリッジ回路を採用し、20 c/s~200 kc 間を 4 つのバンドにより安定にカバーした、正弦波・矩形波発振器である。また、切換スイッチにより、正弦波、矩形波のほか IM (混交調) を測る複合波を取り出すこともできる。主な規格を列記すると、発振周波数範囲 (正弦波・矩形波とも) A バンド: 20~200 c/s, B バンド: 200~2000 c/s, C バンド: 2~20 kc, D バンド: 20~200 kc。周波数誤差は  $\pm 2\%$  ( $+2$  c/s) 以下。周波数特性は正弦波・矩形波ともに範囲は 20~200 kc、出力偏差は 1000 c/s に対して  $\pm 0.5$  dB 以内。出力電圧は正弦波が最大 5V rms 以上 (波形歪は 20 kc 以下にて 1% 以内)。矩形波



の出力電圧は最大 10 V (p-p) 以上。複合波では周波数範囲は 3~20 kc、出力電圧は最大 10 V (p-p) 以上、振巾比は 4:1。出力インピーダンスは約 1.5 k $\Omega$  (最大出力時)。使用真空管は 6AV6, 6AR5 $\times 2$ , 12AT7, 6X4, サーミスターである。外形寸法は横 300×高さ 210×奥行 150 (mm) である。

(東京都千代田区神田司町 1-1)

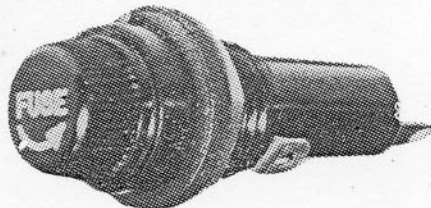
(Tel: 231-0621)

三和無線測器研究所

## ミヤマ電器の小物パーツ

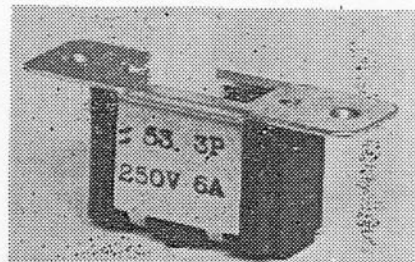
### ● ヒューズ・ホルダー #370

ネジ込み式のヒューズ・ホルダーで、接触不良もなく、10 A までの電流を流しても過熱しない。適合ヒューズは径 6 $\phi$ 、長さは 27~30 mm、取付穴径は 16 mm である。



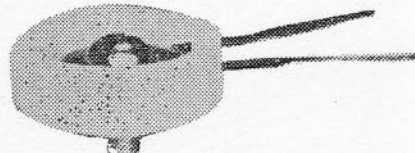
### ● スライド・スイッチ #53

シーソー式を採用し、堅牢で切替操作がもっとも軽快に行える。接点材料は銀。取付穴間隔は 40 mm、ビス穴 3 $\phi$  タップ



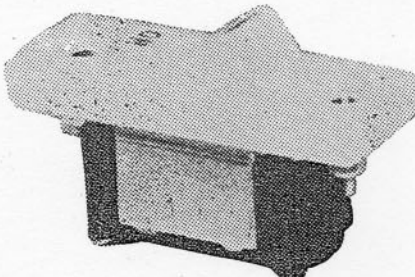
### ● U 型トリマー #109

20 pF の超小型トリマーで、雲母を誘電体としてネジの回転で容量を可変とする方式のもので、トランジスター・ラジオのプリント配線などに好適なものである。基板はポリスチロールで、最高使用温度は 45 $^{\circ}$ C である。また特殊耐熱性樹脂を使用して 120 $^{\circ}$ C までの高温に耐えられる基板の製作も可能である。



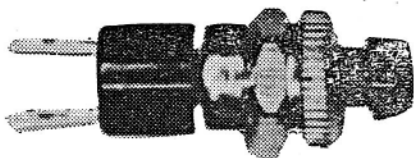
### ● 波動スイッチ #52

250 V, 6 A のもので、シーソー式切替、接点には銀を用いてある。取付穴間隔は 35 mm。



●小型ボタン・スイッチ #44

125 V, 3 A までの用途に適するもので、押しただけ ON となり、はなせば OFF となる押ボタン・スイッチで、端子のぐらつきもなく接触確実である。ボタンの頭を大きくして押



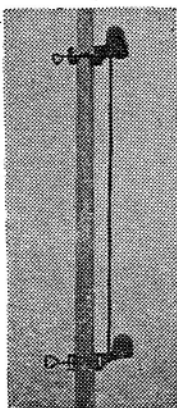
しやすくなっている。ボタンの色は赤、青、クリーム、黒の4色。取付穴径は 7 mm

(東京都大田区上池上町 56)

ミヤマ電器 K. K.

マスプロの ML 整合器

マスプロ電工 (旧称昭和電機工業 KK) が発売した積重ねアンテナ用のインピーダンス整合器である。今までのテレビ・アンテナのスタック (積重ね) はほとんどフイダーだけによる結合方式が多かったため、インピーダンス・マッチングが不完全で、ゴースト発生原因となるものが多く、またスタック・バー方式ではアンテナの間隔を自由に選ぶことができなかったために積重ねの目的を十分に果し得なかった。この ML 整合器 (150~300 Ω インピーダンス変換) を使えば、アンテナを最適間隔に積重ねることができるので、その性能を十分に発揮できる。種類および価格は



ML112 (1~12 ch 用) ¥ 260.

ML13 (1~3 ch 用) ¥ 310.

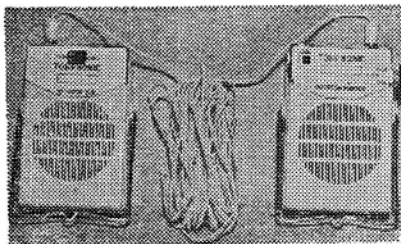
ML412 (1~12 ch 用) ¥ 250

(名古屋市熱田区沢下町 82)

マスプロ電工 K. K.

トーホニック簡易インターホン  
"HP-2T"

中央物産 KK から発売された "トーホニック" 簡易型インターホンである。従来のインターホンの概念を破った画期的なもので、スイッチが切れてあってもお互いに呼び出しが自由にでき、その上、1個の電池で1日3分間の通話を20回行っても50日間使用でき、超小型で軽量である。コードさえあればどこにでも持運べ、机上はもとより、壁、柱などにも簡単に



取付けられる。使用トランジスターは2個、感度は 55 dB 以上、最大出力は 45 mW、電源は 9 V (乾電池1個) である。外形寸法は 65×102×30 (mm) で、重量はマスターホンは 190 gr. サブホンは 110 gr である。定価は ¥ 3850.

(東京都豊島区池袋 2-922

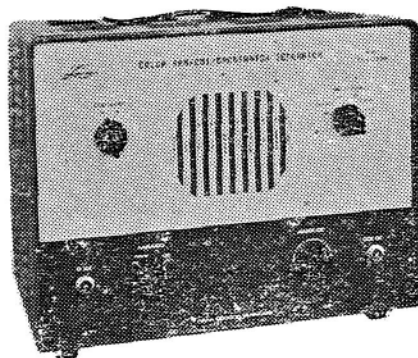
Tel: 983-1837)

中央物産 K. K.

リーダーのカラー・  
バー・ジェネレーター  
"LCG-380A"

本機はオフセット方式によるカラー・バー・ジェネレーターであるとともに、ドット、クロスハッチおよびシェーディング・バーがスイッチ一つで簡単に得られるという、カラー・テレビの調整用の測定器である。また、サービスに便利なようにパネル面にはカラーバーのパターン・モデルが示されている。主な規格は

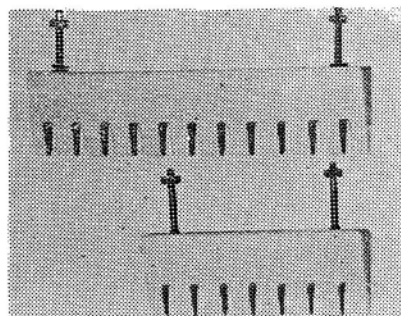
[RF Out] 搬送周波数 1~3 ch (変化可能)、音声搬送波は 101.25 Mc (2 ch)、出力電圧は約 100 mV。[VIDEO Out] 出力電圧は 0~10V (P-P 連続)、出力インピーダンスは約 1 kΩ。[ドットバー、カラーバー信号] ドット信号は H=15 行 V=12 列、ドットの大きさは走査線の3本分、ドット数は 180 個、クロスハッチは H=15 行、V=12 列、Hバー=15 行、Vバー=12 行、カラーバー=10 行、シェーディングバーは幅の広いクロスハッチ。[同期信号] 周波数 fH=15.75 kc, fV=60 c/s。色信号周波数は 3.563795 Mc。消費電力は約 85 VA。重量は約 8 kg 外形寸法は 265×360×190 (mm) となっている。用途は、カラー受像機のコンバージェンス調整、クロミナス回路のチェック、バックグランドの調整、および白黒受像機のパターン・ジェネレーターとして使う等である



(横浜市港北区綱島町 850)

小松電気 K. K.

佐藤部品の小物パーツ



●通信機用タイト・ラグ端子

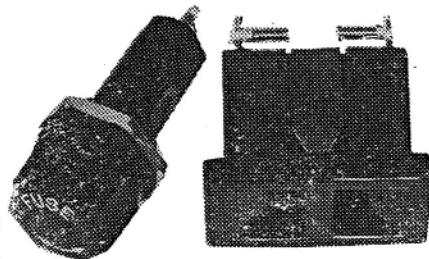
1P~12P まであり、製品番号は No. 3861 ~No. 3872

●7 型ネジ式フェーズ・ホルダー

製品番号は No. 3820 で、黒色、原色がある。

●US 型高級 AC ソケット

製品番号は No. 3790



(東京都渋谷区恵比寿通 1-32

Tel: 441-7215~9)

佐藤部品電気 K. K.

日立の新製品 2 種

●14 型受像機 "シルビア FY 940"

日立から4万円台のテレビが発売された。コンソレット・タイプ、脚を取りはずすこともできる。

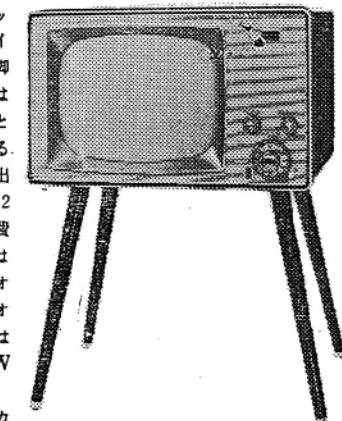
音声出力は約 2 W。消費電力は 120W (オーディオの場合は約 70 W) である。

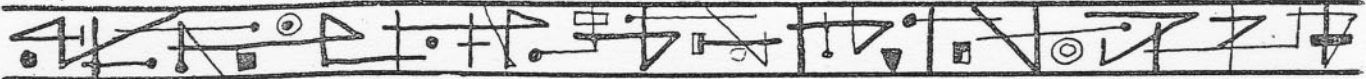
スピーカーは 18×12 cm の楕円型のものである。端子はプレーヤー端子1個、イヤホン2個 (自動切換式、スピーカー併用可能)。外形寸法は幅 530×高さ 35 (脚つき 750)×奥行 440 mm で、重量は約 21 kg である。

●ステレオ再生装置 "DPS-849R"

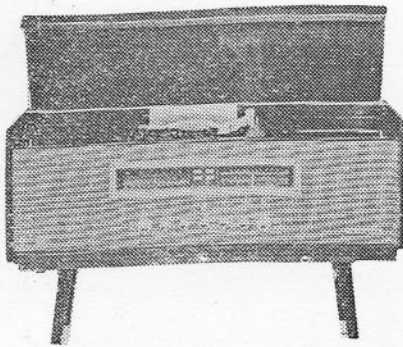
本機は8球2バンド・ラジオ "SG-849R" とステレオ4スピード・プレーヤー "DPU-849" と組合わせたものである。SG-849R は2チャンネル、2バンドである。バンド幅は 3.8~12 Mc と 535~1,605 kc で、中間周波数は右チャンネルが 455 kc、左チャンネル 440kc である。出力は左・右チャンネルとも 2.5 W。消費電力は 60 VA。スピーカーは日立 20 cm PM 型が 2 個となっている。外形寸法は幅 1000×高さ 700×奥行 330 mm で、重量は約 15 kg である

DPU-849 は前記のものキャビネット中に収められてしまうが、PU はターンオーバー式、ステレオ・クリスタル型。針圧は LP, EP, ST, SP とも 7 gr。ターンテーブルは 17 cm ゴムカバーつきとなっている。現金正価は両者を合わせたコンビネーションが ¥ 38,000。SG-849R だけなら ¥ 33,000。DPU-849 は ¥ 5000





である

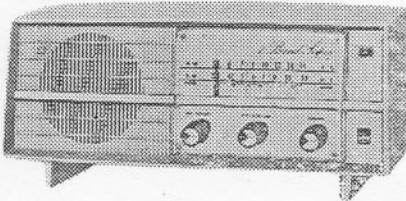


(東京都千代田区丸の内 新丸ビル内)  
日立製作所 K.K.

### ナショナルの新製品3種

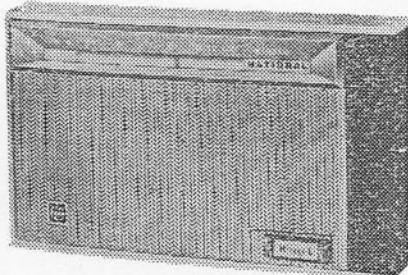
#### ●2バンド・ルームラジオ“GX-230”

12BE6, 12BA6, 12AV6, 30A5, 35W4 という配列の5球スーパーである。受信周波数帯は535~1605 kc と 3.75~12 Mc の2バンドで、感度は両バンドとも 50  $\mu$ V/50 mW。電氣的出力は無至 1.2 W, 最大 1.5 W, 消費電力は 23VA である。使用スピーカーは 10 cm 型。外形寸法は、横 335×高さ 153×奥行 154 (mm) で、重量は 1.85 kg である。現金正価は ¥5,950



#### ●8石1バンド・ポータブル“T-57”

2SA102×3, 2SA101, 2SB171×2, 2SB172×2, OA70 の8石でシングル・バンド (540~1600 kc) というのは珍らしく、極めて高感度である。それに厚さ 26 mm という超うす型である。感度は 150  $\mu$ V/m/5 mW。出力は無至 100 mW, 最大 200 mW。使用電池は 006P (9V)。スピーカーは 6 cm 型である。外形寸法は幅 137×高さ 84×奥行 26 mm で、重量は 290 gr である。現金正価は ¥7500。



#### ●8石2バンド・ラジオ“T-62”

MW540~1600 kc, SW3.9~10 Mc の2バンドで、使用トランジスターは 2SA103×2, 2SA102×2, 2SB173, 2SB175, 2SB175×2 と OA70, MA23 である。感度は MW が 150  $\mu$ V/m/5 mW, SW が 200 mV/m/5 mW, 出力は無

至 150 mW, 最大 250 mW。なお、本機にはクリスタルがついていて、NSB (日本短波放送) を楽にキャッチできる ようになっている。電池は特単ニ×3 (4.5 V), スピーカーは 8 cm 型である。外形寸法は幅 183×高さ 109×奥行 48 (mm) で、重量は 890 gr。現金正価は ¥12,500。

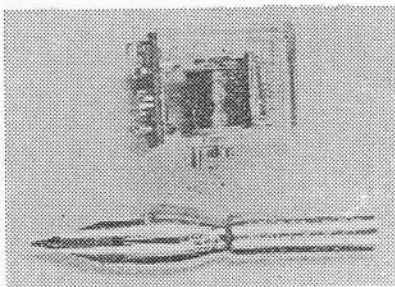
(大阪府北河内郡門真町)  
松下電器・ラジオ事業部



### JCR の SM 型リレー

SM 型とはサブ・ミニチュア型の意味で、写真にごらんのようにペン先と比較して非常に小さくなっている。外形の寸法は 10×14×17 mm で、重量は約 3 gr で、プリント板にトランジスターと同様にプリント配線することができ、透明のプラスチック防塵カバーつきである。主な規格は、1回路2接点、AC100~105 V 0.5A, DC 50V 0.25A, 消費電力は 30mW, 巻線温度上昇は 40°C 以下、動作時間は約 2~8ms, 耐圧 150 V。タイプには下表の5種類の標準品種がある。

Type	電源電圧	表示	小売価格 (一般用)	通信機用
SM-2	DC-2V	緑	¥760-	¥1520-
SM-3	DC-8V	黄	760-	1520-
SM-6	DC-6V	青	800-	1600-
SM-9	DC-9V	赤	860-	1720-
SM-12	DC-12V	白	960-	1920-



(東京都渋谷区桜ヶ丘 2 新桜ヶ丘会館  
Tel: 461-6812)

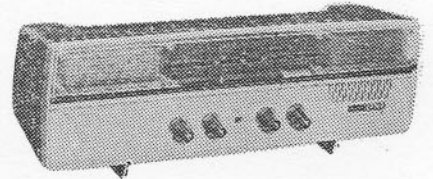
日本セラミック・  
レジスター販売 K.K.

### 三洋の新製品5種

#### ●ホーム TR ラジオ“7S-T49”

7石の2バンドラジオであるが、大きなキャビネットに入っており、10 cm 型スピーカーが2個、左右についている。受信周波数は 540~1600 kc と 3.8~12 Mc である。感度は MW が 100  $\mu$ V/m/10 mW, SW が 80  $\mu$ V/m/10 m

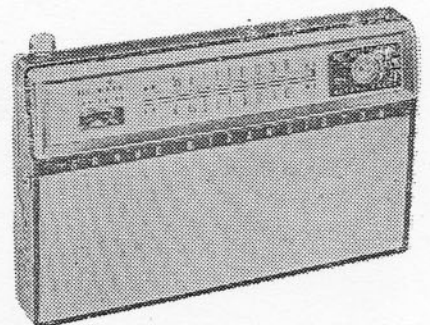
W である。電氣的出力は無至 300 mW, 最大 170 mW, 電源は単一×4 の 6 V, 外形寸法は 470×137×154 mm である。現金正価は ¥11,500。



#### ●デラックス TR ラジオ“マーキュリー”

8石の2バンド・ラジオである。デラックスというのは、短波の周調には拡大鏡によるファイン・チューニング (微同調) がついていて、選局が容易であること、電波の同調度と電池の消耗度を表示するインジケーターつき、また I F 回路は、従来の IFT にトランジスター1個、ゲルダイ1個、抵抗2個、コンデンサー3個を1個のケースにまとめた IF モジュールを使用しているの、動作が安定で感度も高くなっている、などの特長がある。なお、局発回路には発振電圧制御用ダイオードを1個加えて発振電圧を安定化し、低周波回路には NFB をかけて音質の向上をはかっている。

受信周波数は 535~1605 kc と 3.85~12.5 Mc, 感度は MW316  $\mu$ V, SW220  $\mu$ V/m/10 mW。電氣的出力は無至 150 mW, 最大 250 mW。電源は単三×4 の 6 V, スピーカーは 6.5 cm P. D. S. 外形寸法は 168×106×32 mm で、重量は電池なしで 560 gr である。現金正価は ¥11,800



#### ●ステレオ用オート・チェンジャー“SAT-3”

12吋盤 LP が 10 枚、ドーナツ盤は 12 枚, SP は 8 枚が連続に演奏できるオート・チェンジャーで、ステレオ・カートリッジがついている。4 スピードで、25 cm のターン・テーブルがついている。PU はクリスタル型ステレオ・ターンオーバー方式で、針は SP 用がサファイア、LP, ST 用がダイヤモンドとなっている。出力は 0.6 V (1000 c/s。



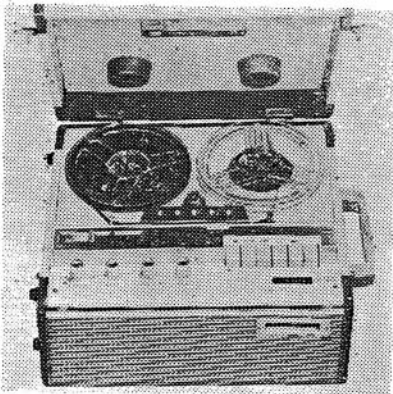


50 mm/S), クロストーク 15dB 以上, 負荷抵抗 1 MΩ, 針圧 9 gr. である。大きさは幅 480×高さ 240×奥行 350 (mm) で, 重量は 8.1kg である。現金正価は ¥ 27,500

●テープレコーダー “S-22MR”

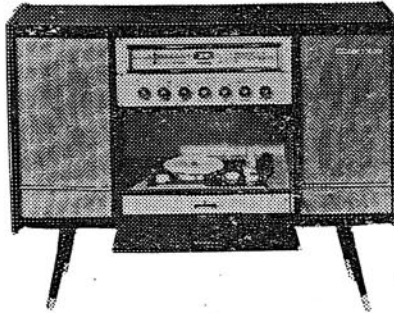
オール・ブッシュボタン式のテープレコーダーで, プランジャー (電磁石) を 6 個も使用してすべて電氣的に切替えている。テープ・スピードは 19 cm/秒 と 9.5 cm/秒 で, 動作中でも切替ツマミを廻すだけで切替えられると同時に各速度に応じた音質調整も自動的に切替えられるようになっている。その他, 音質調整装置, 自動停止装置, テープ・カウンター, レベル・メーターなどもついており, また, タイム・スイッチ, リモート・コントロール装置の使用可能, 8 mm 映画機との同期用ストロボがついている。なお, 一時停止ボタもついている。

使用真空管は 12AD7, 12AX7, 6AR5×2, 6X4 となっており, ダブル・トラック, 周波数特性は, 19 cm/s が 40~15000 c/s, 9.5 cm/s が 40~9000 c/s である。使用テープは 7 号まで。早送りは 2 分 30 秒 (7 号), 巻戻しは 2 分 40 秒 (7 号), 入力回路はマイク 1, ラジオ 1。スピーカーは 25×10 cm の PDS。電氣的出力は無至 4 W, 最大 5 W。外部出力は 8 Ω。モーターはコンデンサー・モーターが使用してある。消費電力は 120 VA。外形寸法は幅 469×高さ 220×奥行 378 mm で, 重量は 15 kg である。現金正価は ¥ 46,000



●Hi-Fi ステレオ装置 “STG-370”

16 cm 型 2 個, 18 cm 型 2 個を備えたステレオ装置である。使用真空管は 12BE6×2, 12BA6×2, 12AV6×2, 30A5×2, 6R-K16, SJ-12 (ダイオード)×2 で, 右チャンネルが 535~1605 kc と 3.8~12 Mc の 2 バンド, 左チャンネルが 535~1605 kc のシングル・バンドとなっている。IF は右が 455 kc, 左が 475 kc。出力は両チャンネルとも無至 1.5 W, 最大 2 W で, モノで大きく場合は 3 W, 4 W となるわけである。再生周波数は 70~12000 c/s。プレーヤー部は 4 スピード・インダクション型 (速度調整つき), PU はクリスタル・ターンオーバー型である。全体としての外形寸法は幅 1050×高さ 550 (脚 260)×奥行 390 mm で, 重量は 26.2 kg である。



(大阪府守口市京阪本通り 2 の 18)  
三洋電機 K. K.

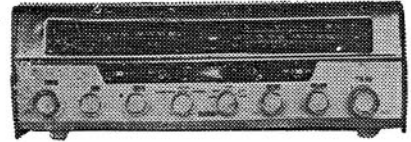
クライスラーの新製品 2 種

●ステレオ・アンプ “STU-808”

12 球と 5 ゲルダイを使ったステレオ・アンプである。つまり使用真空管は 6AQ3×2, 6BA6×3, 6BE6×3, 6BQ5×2, 12AX7×2, 6GE12A, 5AR4, OA79×5 である。チューナーは右側が MW535~1605 kc, SW 3.8~11 Mc (セパレート型), FM 80~108 Mc (AFC 切替付) で, 左側が MW 535~1605 kc となっていて, MW バンドは左右とも帯域幅が切替えられるようになっている。同調指示にはステレオ用マジックアイ 6GE12A が使われ, 出力は 6BQ5 シングル

で 6 W+6 W である。

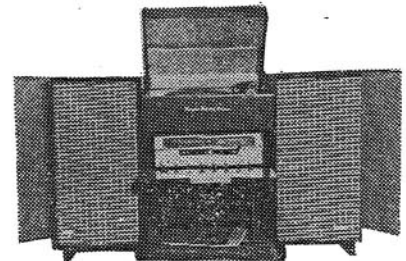
出力端子は 8, 16 Ω, イヤーホン・ジャックもついている。入力端子はクリスタル PW 用, ラジオまたはテープレコーダー用の 2 個, またステレオ・バランス・メーターもついていて, 外形寸法は幅 421×高さ 138×奥行 317 mm で, 重量は 12.5 kg である。



●ステレオ・アンサンプ “STL-101”

上記の STU-808 型を組み込んだものである。中央のプレーヤーとアンプが入っている部分には 25 または 30 cm ターンテーブルのユニットを組み込むことができる。この部分の外形寸法は高さ 720×横 510×奥行 39.5 (mm) のキャビネット。下部は物入れの棚となっている。

左右に配置されているスピーカー・ケースは 8H-101 型で, 中には低音用として 20 cm (コーラル 8L-7), 高音用としてホーン型 (ナショナル-311B) が入っており, インピーダンスは 16 Ω, 最大許容入力 10 W, 再生周波数帯域は 50~16,000 c/s となっている。外形寸法は高さ 720×横 370×奥行 395 mm で, 重量は 13.5 kg のものである。



(東京都千代田区神田旗本町 2 の 1)  
クライスラー電気 K. K.

SSB 工作室のつづき

さて, 前記のエッチングのデータを得るために No. 5 を標準クリスタルとしてイジラないことに決め, No. 6 を「漬けもの」にして周波数移動用としました。特にこういう決め理由もないのですが, No. 5 と No. 6 は殆ど同一周波数をもっていたのでエッチングを開始する際にゼロ・ビートがとり易かったのです。

第 22.2 図あるいは第 22.4 図中の X<sub>A</sub> がつまり No. 5 で比較標準用, X<sub>B</sub> が被測定つまり移動用のクリスタル

となったわけです。60 分のデータをとるために X<sub>B</sub> は X<sub>A</sub> よりも 2.28 kc (位) 高くなりましたが, いずれはローア・サイドバンド用のキャリアー発振用として多分役立たせることになると思うので無駄にはならないと思います。

そこでフィルター用の X<sub>1</sub> と X<sub>4</sub> を例えば 5750 kc, X<sub>2</sub> と X<sub>3</sub> を 5751.5 kc (第 22.6 図) にとりたい場合ですので, とりあえず No. 4 と No. 5 とはそのままにしておき, No. 7 と No. 8 とを 5751.5 kc にすべくエッチングすることになります。本来は周波数

のチェックはフィルター用の場合ですから, 直列共振周波数をも測定すべきですが, 便宜上発振器に入れて発振させたときの周波数, つまり並列共振周波数を一応チェックすることになります。

もつとも発振回路の定数によって並列共振周波数は動きますから, 精密なチェックから 2 枚の水晶片の比較テストには問題はないと思います。

このように発振テストのみの周波数チェックで, 如何なる特性のフィルターができるか「お楽しみ」というところです。では, 来月まで。